

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月21日

協議会名: 茂原市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【市民バス】 事業者:小湊鐵道株式会社 運行系統:南部(鶴枝)・南部(五郷)</p>	<p>南部(鶴枝):茂原駅～三ヶ谷神社～茂原駅 南部(五郷):茂原駅～石神集会所～茂原駅</p>	<p>・定期的に「茂原市交通マップ」を市内の各公共施設や鉄道駅等に配布した。 ・運賃収入以外の収入源の確保のため、市民バスの車体に有料広告の掲載を行った。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 前年度よりも北部(豊岡)コースは1,372人(6.4%増)、東部コースが5,905人(6.4%減)、南部(鶴枝)・南部(五郷)コースは8,530人(16.1%減)と東部コース及び南部(鶴枝・五郷)コースで利用者数が減少した。全体では、1,962人の減、前年度比で11.0%の減となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少した一因と推測される。</p>	<p>・運賃収入以外の収入源の確保のため、引き続き市民バスの車体等に、有料広告を募集し掲載を行う。 ・広報・自治会への回覧等を通じ、さらなる周知を図ると共に、必要に応じて地元説明会等を実施する。 ・市民バス及びデマンド交通共通の回数乗車券の周知に努め、公共交通の利用促進を図る。</p>
<p>【デマンド交通】 事業者:都自動車株式会社 運行系統:北西エリア</p>	<p>茂原市北西エリア</p>	<p>・デマンド交通「ふれあい」の乗降場所を追加し利便性の向上を図った。 ・デマンド交通「ふれあい」全利用登録者世帯宛にPRを兼ね、乗降場所追加のお知らせ文を送付し周知を図った。 ・定期的に「茂原市交通マップ」を市内の各公共施設や鉄道駅等に配布した。 ・デマンド交通「ふれあい」利用者の地区別割合や行き先等の分析をし、状況把握に努めた。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>A 利用登録者数は、以前の目標(500人)を達成できたため、見直しにより新たに目標値を750人に設定した。前年度から43人増加している。利用者数は、目標値の10人/日以上を達成できた。前年度と比較すると137人の増、前年度比では7.8%の増となっている。 ・運賃収入の9割以上が回数乗車券であることから、回数乗車券の導入により利用促進効果があつたと推測される。また、60歳以上の利用者が9割以上であることから、交通弱者の移動手段が確保され、外出機会の増加に大きく寄与している。</p>	<p>・利用需要の高い高齢者を中心とした利用促進策を講じて、利用者の拡大に努める。 ・広報・自治会への回覧等を通じ、さらなる周知を図ると共に、必要に応じて地元説明会等を実施する。 ・市民バス及びデマンド交通共通の回数乗車券の周知に努め、公共交通の利用促進を図る。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

一部の目標について新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。
 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
 ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。
 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。
 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月24日

協議会名: いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道株 いすみ循環-1	市役所大原庁舎～長者町駅～ いすみ医療センター～市役所 大原庁舎	前回の評価、令和2年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員の助言として、更なる利用促進に取り組まれるとともに、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待するとの指摘をいただき、令和2年10月より土曜日運行を開始し、また、高校生の通学時間帯の利用促進を図り、運行計画の変更及び高校生利用料金の改定を協議している	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	A 補助対象期間(令和2年10月から令和3年9月)の利用目標24,000人のところ、実績は27,022人(うち75歳以上無料パスポート使用者が11,197人)という結果となった。 コロナ禍ではあったが年配者の外出が増え、75歳以上無料パスポートの利用者数が前年度に比べて1,340人増加している。	感染予防対策を十分に行ったうえで、高齢者の利用促進を引き続き行っていくと同時に、収支率を回復させるためにも若年層(高校生の通学など)の利用促進を図っていくことが必要。
小湊鐵道株 いすみ循環-2	市役所大原庁舎～長者町駅～ 房信夷隅町支店前		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	A	
小湊鐵道株 いすみ循環-3	市役所夷隅庁舎前～下布施～ 市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	A	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>市内無料パスポートを発行するなど公共交通の利用促進に取り組まれ、設定した利用人員の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
---------------------------------	---

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 旭市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-1)	ひかた市民センター～東6区集会所～東1区集会所～旭中央病院	これまで、交通空白地域解消を目的とした一部ルート延伸や、JRにあわせた運行ダイヤ改正、安全を考慮した運行ルートの変更など、各種の見直しを行い、運行を維持してきた。これらにより、移動の円滑化も図られ、計画実施による効果が見られている。 運賃収入以外の収入源の確保のため、コミュニティバスの車体に有料広告の掲載を行っている。 車両内の新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸、各公共施設に配布、市HPで周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標 利用者数 7人/平日1便 3.5人/休日1便 実績 利用者数3.1人/平日1便 1.7人/休日1便 新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を大きく受けて、利用者が減少している。	引き続き運賃収入以外の収入源の確保のため、コミュニティバスの車体に有料広告を募集し掲載を行う。 車両内の新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸配布等を行い、運行内容の周知を行い利用者の回復を図る。 令和4年度に市民アンケート等を行い、市民のニーズを把握し、地域公共交通計画を策定し、計画に基づいた改善等を行っていく。
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-2)	干潟駅～湯木坂上～東1区集会所～旭中央病院				
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-3)	干潟駅～湯木坂上～ひかた市民センター				
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-4)	ひかた市民センター～湯木坂上～干潟駅				
有限会社丸運タクシー 旭市デマンド交通	旭南地区	車両内の新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、市役所関係部署と連携し、周知を行った。 総合公共交通マップを発行し、市内各戸、各公共施設に配布、市HPで周知を行った。 また、定期的に乗降対象施設の見直しを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標 収支率 18.7% 実績 収支率 15.6% (旭南 20.0%) (干潟・旭北 16.2%) (海上・飯岡 10.7%) 主に新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を受けているが、利用登録者数は順調に増えており、収支率の低い地区も徐々に収支率が上昇している。	車両内の新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、利用登録者の増加に向けて、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸配布等を行い周知を行う。また、市役所関係部署と連携し、利用者となる高齢者団体等に周知を行っていく。 定期的に乗降対象施設の見直しを行い、利便性の向上に努めていく。 令和4年度に市民アンケート等を行い、市民のニーズを把握し、地域公共交通計画を策定し、計画に基づいた改善等を行っていく。
旭タクシー株式会社 旭市デマンド交通	干潟・旭北地区				
アステル交通株式会社 旭市デマンド交通	海上・飯岡地区				

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>コミュニティバス、デマンド交通ともに、目標は未達成となった。特にコミュニティバス干潟ルートの日曜日の便あたり利用者数は低迷しており、ニーズの把握と必要性、ふさわしい運行のあり方等再検討を行っていただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考として頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。・ バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。・ 利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
---------------------------------	---

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月21日

協議会名: 山武市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばフラワーバス(株)	山武市基幹バス さんぶの森元気館⇄蓮沼海浜公園	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	目標① 公共交通網の満足度を45.0%以上に向上させる。 【満足度】42.4% 【目標を達成できなかった要因】 世代間・地域間で満足度に違いがあり、山武・蓮沼地域の満足度が低かったため。	目標① 【基幹バス】 ・新たな利用者を確保するため、利用者ニーズの把握に努め、運行計画に反映させる。 【乗合タクシー】 市内を3地域に分け、それぞれの地域内を運行し、令和3年10月から各地域の拠点となる施設等を対象として地域外運行の拡大を実施した。今後の利用者ニーズの推移を見守りたい。 ・運行効率の向上を図るため、同一の発着地への相乗りを促進する。相乗りの促進にあたっては相乗り割引の導入について検討する。
房総自動車(有)	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	目標② 基幹バスの1日当たり利用者数を134人以上に増加させる。 【利用者数】 105.0人/日 【目標を達成できなかった要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により1日平均利用者数が減少し、以前の程度まで回復できないため。	目標② ・市内の公共交通情報のオープンデータ化を実施し、各交通モードの一体的な利用促進を図る。 ・各事業者と連携し、地域間幹線系統への接続改善等、市内の各交通モード間の連携を強化する。
両総観光(株)	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	目標③ 乗合タクシーの1日当たり利用者数を131人以上に増加させる。 【利用者数】 111.8人/日 【目標を達成できなかった要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により1日平均利用者数が減少し、以前の程度まで回復できないため。	
(有)松尾タクシー	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>基幹バス、乗合タクシーともに新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかった。乗合タクシーについては、令和3年10月から、各地域の拠点となる施設等を対象として地域外運行を実施されている。他の交通手段への影響を注視するとともに、必要に応じて需要を集約した効率的な運行形態についてもご検討いただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。・ バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。・ 移動の目的をつくることが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。・ 利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
---------------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月27日

協議会名: 香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス	令和3年10月再編において、減便し最適化を図った。新たに栗源高萩地区への乗り入れを開始した。	A 計画通り事業は適切に実施された	B 計画目標13,200人に対し、実績は12,025人となった。計画目標16%以上に対し、実績は14.2%だった。	新規乗り入れを開始した地区に対する利用促進事業を実施する。
京成タクシー成田株式会社	小見川乗合タクシー	運賃改定を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 計画目標6,700人に対し、実績は6,426人となった。計画目標15%以上に対し、実績は15.9%だった。	便当たりの平均乗合人数が2人未満であるため、運行便数の最適化を検討する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>小見川循環バスについては新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、小見川乗合タクシーの収支率については、運賃改定を実施し目標を達成されたことを評価する。また補助対象路線以外についても、適切な費用負担への変更や路線の見直しなどに積極的に取り組まれている点を評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・ バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。 ・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・ 利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
-------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 26日

協議会名: 市原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊タクシー(株)	戸田地区 養老地区	利用者ニーズの把握につとめ、戸田地区において運行区域の拡大に向けて協議検討を実施したとともに、養老地区において利用促進に向けてリーフレットや啓発物資等の配布による利用促進策について検討を実施。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 交通空白地域である3地区において、デマンド型乗合タクシーの運行を維持することにより、高齢化社会における交通弱者等の生活交通の確保を図った。 戸田地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.25人/回」に対して、「1.09人/回」であった。 養老地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.50人/回」に対して「1.54人/回」であった。 市津地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.20人/回」に対して、「1.24人/回」であった。	地域住民や交通事業者の参画のもと定期的に運営会議を開催し、運行状況や運行上の課題等を検証し、運行内容の改善及び利用促進を図っていく。
(有)潤井戸タクシー	市津地区	利用者ニーズの把握につとめ、運行曜日及びダイヤの拡大について協議検討を実施。			

小湊鉄道(株)	①鶴舞バスターミナル～湯原～里見駅	今年度においても、計画どおり事業を実施するとともに、小中一貫教育校の通学に対応した運行ダイヤ・運行ルート改善検討等を適宜行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	<p>平成25年4月に加茂地区の5校を統合して開校した小中一貫教育校の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。</p> <p>目標「1日の平均利用者40人」に対して、コロナウイルス感染症の影響により、「1日平均利用者24.28人」であった。</p> <p>平日の登下校の時間帯以外の便及び土日祝の便は非常に利用が少なく、運行の維持が厳しい状況であったため、平成28年12月に利用が少ない便の見直しを行い、平日のみの運行とすることで収支率の改善を図った。</p> <p>また、令和2年10月に学校と協議の上で通学需要に対応した運行ダイヤの改善を図った。</p>
	②鶴舞バスターミナル～久保～里見駅					
	③鶴舞バスターミナル～高滝駅～里見駅					

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>一部の路線については新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、こういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
-------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月28日

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社 君津営業所	君津市デマンドタクシー予約便(小櫃・上総地区)	・75歳以上の高齢者の外出を支援するため、デマンドタクシーも利用できる公共交通の共通利用券を交付するとともに、公共交通機関や観光施設にリーフレットを配布するなど、デマンドタクシーの利用促進を図った。	B 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 ※計画には未掲載だが、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域住民との意見交換会が実施できなかった。	C 【目標】 利用者数:20,000人 収支率:25.0% 【実績】 利用者数:13,437人 収支率:6.6% ※共通利用券を通常の運賃収入として換算した場合の収支率は8.2%	・新型コロナウイルスワクチン接種会場までの交通機関の利用に係る費用を支援するなど、デマンドタクシーの利用促進を図る。 ・利用者ニーズや運行状況を把握し、運行効率の向上に努める。
	君津市デマンドタクシー定時便※遠距離通学者のスクール利用含む。(亀山地区)	・新型コロナウイルス感染症の影響から、地域住民との意見交換は見送ったが、運行事業者と意見交換を実施し、利用状況の把握に努めた。	B 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 ※計画には未掲載だが、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域住民との意見交換会が実施できなかった。		

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	公共交通の共通利用券の交付及びリーフレットの配布など、公共交通の利用促進の取組は評価できるが、利用者数及び収支率の目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成に至らなかったが、引き続き利用促進及び利用者ニーズを把握した運行効率の向上を進めて頂きたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。
-------------------------	---

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月19日

協議会名: 印西市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばレインボーバス株式会社	コミュニティバス(ふれあいバス) 運行系統: 印旛・本笠支所ルート (印旛支所～竜腹寺～本笠支所～印西牧の原駅～本笠支所～竜腹寺～印旛支所) 31.8km 運行日: 毎日運行 運行時間帯: 7時25分～18時27分 運行本数: 7便/日(循環型) 運行車両: 1台 運賃: 大人(中学生以上)100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料	前回の事業評価では、目標値である利用者数80人/日が達成されなかった。目標利用者数を下回った要因としては、認知度、令和元年度のルート延伸に伴う減便、新型コロナウイルス感染症の影響等が考えられる。今後、様々な利用促進策を検討、実施し、利用者の確保を図る。	A 印旛支所や日本医科大学千葉北総病院が立地する印旛日本医大駅エリアと、住宅が集積し大規模な商業施設が立地する印西牧の原駅周辺エリアを結び、荒野・竜腹寺地区や本笠支所を経由することにより、交通不便地域の解消を図ることを目的に、計画どおり実施された。	B 結果: 1日 51.46人 1日当たり利用者数については、前年度と比較すると46.43人/日から51.46人/日と、約10%の増加となっているものの、新型コロナウイルス感染症拡大前である令和元年度の72.45人と比較すると、29%の減少となっており、交通不便地域の荒野、竜腹寺地区の利用者も、前年比で14%減となっている。しかし、令和元年10月に新設した本笠支所停留所の利用状況を見ると、利用者数50%増となっており、周辺地域の利用が喚起されていると考えられる。	・目標利用者数を下回った要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響等が考えられる。今後、新型コロナウイルス感染症の予防策を講じながら、様々な利用促進策を検討、実施し、利用者の確保を図る必要がある。 ・特に交通不便地域の荒野、竜腹寺地区や、本笠支所からの利用者(東ルート、六合路線、スワン号との相互乗換利用者)を増加させ、少しでも路線の採算性を上げ、持続可能な路線となるよう、努める必要がある。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	昨年度比では改善が見られるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかった。ポストコロナを見据え、認知度向上や乗り継ぎ抵抗の解消など、利用増に繋がる施策を検討していただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・ バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。 ・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例: まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・ 利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
-------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 東金市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
東金タクシー有限会社 南総タクシー株式会社 小川タクシー有限会社 仲田タクシー有限会社	デマンド交通(東金市乗合タクシー)市内全域	○当日の無断予約キャンセルの抑制のため予約キャンセル常習者に適宜電話での口頭注意を実施した。 ○利用者が希望する時間に予約が取れない場合でも、利用可能な時間帯を提案することで、利用に繋げる取組みを実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【目標数値】 1日当たり利用者数45人 (前回目標 55人) 【結果】 1日当たりの利用者数 32.9人 (前回実績42.3人)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりデマンド交通自体の需要が一時的に低下している。需要が回復した際に効率の良い運行が可能になるよう予約キャンセル常習者への口頭注意等を随時実施し、予約不成立件数の削減に努めていく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成には至らなかったが、利用者に寄り添った利用促進に繋がる提案は評価できる。引き続き、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。				

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月18日

協議会名: 勝浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道株式会社	勝浦市予約制乗合タクシー(上野地区、大沢地区、浜行川地区、小松野地区、大楠地区及び松部・串浜地区の一部)	<p>○市広報誌に予約制乗合タクシーのご案内記事を掲載し、周知及び利用促進を図った。</p> <p>○利便性向上に向けた利用者アンケートを実施した。</p> <p>○令和4年10月からの運行区域拡大に向けて対象地域の住民に事前説明及び利用意向の調査を実施するなど、周知及び利用促進を図った。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された	<p>【目標】 利用者数 5,860人 (1日当たり 20人/日)</p> <p>【実績】 利用者数 4,071人 (1日当たり 13.9/日)</p> <p>【目標不達成要因】 新型コロナウイルス感染症拡大以前については目標値を上回る利用があったが、感染拡大以降は感染防止対策として不要不急の外出を控えることが求められるなど、公共交通全体の利用が減少したものと考えられる。また、感染縮小期においても引き続き外出控えの傾向がうかがえる。</p>	<p>○市広報誌に予約制乗合タクシーのご案内記事を掲載し、周知及び利用促進を図る。</p> <p>○令和3年7月に実施した利用者アンケートの結果から改善可能な点を検討し利用促進につなげる。</p> <p>○令和4年度に地域公共交通計画の策定を予定しており、交通モード全体としての利便性向上を図ることから、予約制乗合タクシーの運行についても抜本的な見直しを検討する。</p> <p>○コロナ禍においては、車両や運転手の消毒や換気を徹底するなど感染症対策を実施し利用者の安全・安心を確保する。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
-------------------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年12月20日

協議会名: 大網白里市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道株式会社	増穂地区コミュニティバス ・運行系統: 中部コミュニティセンター～中部コミュニティセンター ・運行日: 毎日(9便は平日のみ運行) ・運行本数: 9便/日(平日)、8便/日(土日祝日、8月13日～15、12月29日～1月3日)	更なる利用者の利便性向上やニーズの把握を行い、今後の市公共交通施策や運行計画の基礎資料とするため、市民アンケート及び利用者アンケートを実施した。 この結果や、運行事業者等の意見を踏まえ、引き続き利用状況の分析や正確なニーズ把握を行うことで利用促進を図りたい。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数が減少に転じている。直近の利用者数は回復傾向にあるものの、目標とした利用者数を下回る結果となった。 ・利用状況を分析すると、市内公共交通空白地域(清名幸谷、上谷新田、南横川等)において、自由乗降を利用した乗降者が多く見られるため、事業の効果として、計画と合致した成果が見られる。	・コミュニティバスの運行が継続されることは、地域にとって有効な活性化施策になるという理解の浸透をはかるとともに、地域住民が当事者意識を持ち、地域で公共交通を維持していくという意識を持っていただけるよう、利用促進策や、情報提供の仕組みを検討していく必要がある。 ・住民の移動手段、ニーズ等を分析し、更なる利便性の向上を図っていく。
千葉中央バス株式会社	増穂地区コミュニティバス ・運行系統: 中部コミュニティセンター～中部コミュニティセンター ・運行日: 毎日 ・運行本数: 8便/日	更なる利用者の利便性向上やニーズの把握を行い、今後の市公共交通施策や運行計画の基礎資料とするため、市民アンケート及び利用者アンケートを実施した。 この結果や、運行事業者等の意見を踏まえ、引き続き利用状況の分析や正確なニーズ把握を行うことで利用促進を図りたい。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数が減少に転じている。直近の利用者数は回復傾向にあるものの、目標とした利用者数を下回る結果となった。 ・利用状況を分析すると、市内公共交通空白地域(清名幸谷、上谷新田、南横川等)において、自由乗降を利用した乗降者が多く見られるため、事業の効果として、計画と合致した成果が見られる。	・コミュニティバスの運行が継続されることは、地域にとって有効な活性化施策になるという理解の浸透をはかるとともに、地域住民が当事者意識を持ち、地域で公共交通を維持していくという意識を持っていただけるよう、利用促進策や、情報提供の仕組みを検討していく必要がある。 ・住民の移動手段、ニーズ等を分析し、更なる利便性の向上を図っていく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。				

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 12月 23日

協議会名: 長南町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)長南タクシー	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、事業を実施している。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された	A 計画年4,148回の運行に対し、4,931回運行し、延べ5,279人の交通手段の確保が出来た。	・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少に伴い、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しR2・R3年度に支援金を給付した。
ゆたか自動車(株)	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、事業を実施している。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された	B 計画年4,148回の運行に対し、4,048回運行し、延べ4,342人の交通手段の確保が出来た。	・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少に伴い、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しR2・R3年度に支援金を給付した。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用方法を簡潔にまとめた案内プレートを利用登録者へ作成・送付したりペア割引を実施するなど公共交通の利用促進に取り組み、運行回数と利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。</p>
-------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名:御宿町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道株式会社	町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業として、平成26年10月1日から実施。ルートを決めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。	乗合運行(デマンド型)及びお出かけ支援事業について、利用を促進するため、広報で特集し、事業の周知を行った。	A (事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された)	C (事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった) ※目標利用者5,385人に対し実績4,470人(▲915人) ※目標収入1,631,400円に対し実績1,316,900円(▲314,500円)	・引き続き利用状況の統計を蓄積して不満やニーズを探り、利用満足度の高いサービスを実施していく。 ・リピーターが多いため、ライフサイクルが合致する方にとっては満足していただけていると思う。しかし、登録している方うちよく利用する方は少なく、移動を困難と感じている方はもっと潜在すると思われるため、制度周知を重ねて実施していくことに加え、移動先別の移動モデルの提示を行うなどのアプローチを検討していく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付する等のほか、お店のチラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。 				

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

協議会名：横芝光町地域公共交通会議

令和3年12月23日

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回の事業評価結果、反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
<p>事業者名：有限会社横芝タクシー 運行系統名：横芝光町デマンドタクシー</p>	<p>横芝光町デマンド（乗合）タクシー（町内全域）</p>	<p>【前回の評価結果】 公共交通に関する満足度の目標は達成したが、乗合タクシー利用者数の目標は達成に至らなかった。 今後、地域公共交通計画の策定に取り組むに当たり、路線バス・コミュニティバス・デマンド交通相互間での乗り継ぎ改善策や運賃施策など、乗り継ぎが負担とならないような施策が業種を超えて実施され、地域の交通が一体的に使いやすいものとなるよう検討いただきたい。</p>	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>	<p>【利用者数】 目標である循環バス・乗合タクシー利用者数3,000人/月に対し、令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)の利用状況は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛などの影響を大きく受け、月平均利用者数は2,537人/月と目標値を下回ることとなった。</p>	<p>ルート・ダイヤ変更や路線廃止など効果的な施策を盛り込んだ地域交通計画を令和3年度中に策定し、令和4年12月より計画に基づき、より地域の実情に即した持続可能な公共交通網を確立を目指す。</p>
<p>事業者名：房総自動車有限会社 運行系統名：横芝光町デマンドタクシー</p>		<p>【反映状況】 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、利用者数が低迷していることから実績値を基に循環バス・乗合タクシーの利用者数は据え置きとする。</p>	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>	<p>【公共交通に関する満足度】 満足度40%以上を目標と設定しており、循環バス及びデマンド（乗合）タクシー登録者アンケートにおける全般的なサービスの満足度について、循環バスは82%が「満足」「まあ満足」との回答で、デマンド（乗合）タクシーについては40%以上が「満足」「まあ満足」と回答して2つの合計値の平均は61%となるため、目標値を達成している。</p>	
<p>事業者名：両総観光株式会社 運行系統名：横芝光町デマンドタクシー</p>			<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。</p>		

<p>地方運輸局等における二次評価結果（関東運輸局）</p>	<p>満足度の目標を達成した点は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、新たに作成される地域公共交通計画に基づき、地域の実情に即した交通サービスの提供を進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言（下記）を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。</p>
--------------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 鴨川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日東交通株式会社	1. 北ルート 金山ダム～鴨川駅西口～鯛の浦～内浦山県民の森 2. 北ルート 金山ダム～鴨川市役所～鴨川駅西口 3. 南ルート 曾呂終点～畑青年館～鴨川駅西口～浦の脇～鴨川駅前 4. 南ルート 曾呂終点～畑青年館～鴨川駅西口 5. 南ルート 浦の脇～東条病院～鴨川駅前 6. 清澄ルート 奥清澄～清澄寺～天津小湊支所	計画に定めた目標の達成を目指し、コミュニティバス各ルートのパンフレットを作成・配布したほか、モビリティ・マネジメントの一環として、小学生を対象とした「公共交通乗り方教室」を開催するなど、各種利用促進策に取り組んだ。また、利用者ニーズに即したサービスとするため、運行事業者から停留所・便ごとの利用状況の定期報告を受け、利用状況の把握・分析に努め、利用者増加に向けた検討を行った。	A 事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 利用目標 42,572人/年に対し、実績では25,093人/年であった。 内訳は、以下のとおり。 ○北ルート 実績 12,509人/年 (対前年比 94.7%) ○南ルート 実績 9,838人/年 (対前年比 94.5%) ○清澄ルート 実績 2,746人/年 (対前年比 109.9%) (理由等) 沿線住民の人口減少、特に市内小・中学校の生徒・児童数の減少等による恒常的な利用者が減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響などが大きな要因となり、目標に届かない結果となった。	より一層の利用促進を図るため、今年度策定予定の鴨川市地域公共交通計画に定める各種事業に取り組んでいく。 特に、公共交通の利用に向けた意識啓発の一環として実施する公共交通乗り方教室については、プログラム内容の改善・拡充を検討する。 なお、これらの取組は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ実施する。 また、運行事業者から提供される利用状況のデータ分析に加え、利用者へのヒアリング調査を行い、利用者ニーズや利用動態等の把握に努め、これらをもとに民間路線バスも含めた路線の再編や運行方法の見直し等の検討を進める。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	運行事業者から停留所・便ごとの利用状況の定期報告を受けるなどの取組は評価出来るが、利用目標は未達成となった。運行事業者から提供されたデータをもとに利用者のニーズ等を改めて確認いただき、必要に応じて運行内容の見直しの検討を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。				

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月24日

協議会名: 八街市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 ちばフラワーバス株式会社	八街市内循環バス(愛称ふれあいバス) 北・東・西・南コース ※南コースについては、補助対象外であるが、生活交通確保維持改善計画において包括的な目標設定をしているため、ふれあいバス全体としての評価を記載しています。	更なる利用者の利便性向上やニーズの把握を行うため、コミュニティバス及び各公共交通機関間の乗り継ぎ調査を実施(令和2年10月)。この結果や運行事業者等の意見を踏まえ、引き続き利用状況の分析を行い、正確なニーズ把握を行うことで利用促進を図りたい。	A 計画通り事業は適切に実施された	B 目標①ふれあいバスの収支率26%以上 実績: 19.2% 補助対象期間(令和2年10月から令和3年9月)の利用者数は、73,721人と、前年度と比較し3,211人の減少であった。新型コロナウイルスの影響により、利用者が減少した一因と推測される。 目標②公共交通に対する満足度10%以上に向上 実績: 10.7% ふれあいバスと路線バスとのターミナルを共有したこと、バスターミナルを有する鉄道駅(JR八街駅)へのアクセス向上により、公共交通機関相互の接続が図られ、交通手段の維持確保ができた。	令和3年5月に策定した、八街市地域公共交通計画に基づき、令和3年10月にふれあいバスの運行ルート及びダイヤの見直しを行った。商業施設等への乗り入れを実施するなど、外出ニーズに対する公共交通の充実を図っている。また、見直しに合わせ、作成した公共交通マップを活用しながら、更なる市民の外出機会を創出していきたい。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>ふれあいバスの収支率については新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、公共交通の満足度については目標を達成されており、地域公共交通計画に基づきふれあいバスのルート再編についても取り組まれた点を評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・ バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。 ・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例: まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。 ・ 利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたい。
-------------------------	---

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 富津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
NPO法人わだち	竹岡地区交通空白地有償運送	運行事業者と運行状況に関して課題の洗い出しを行い、整理すべき課題を再認識。再度利用者ニーズを把握するべくアンケート調査を令和3年6月に実施。得られた調査結果を基に運行ダイヤの見直しを行い、令和4年度事業から実施する。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。 (新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、利用者数の目標値700人に対し実績532人と届かなかったものの、昨年度と比べ利用者数が2.2倍に増えていることから、B評価とした。)	運行計画を変更し、令和3年10月1日から実施している。ダイヤ変更による利用動向に注視しつつ、必要な見直しを行う。また、地域の医療・商業施設と連携し、より利便性の高い運行方法を検討する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>運行事業者とともに課題の洗い出しや、利用者のニーズを把握し運行内容の見直しなどの取組は評価出来るが、利用者数の目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、目標達成には至らなかったが、引き続き利用促進などの取組を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していかかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。 ・ 移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。
-------------------------	--

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 木更津市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富来田地区まちづくり協議会	ふくちゃんバス (区域運行: 富来田地区)	(新規)	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ①利用者について、 ・延べ10人/日 ・延べ80人/月 ②実証運行時と比較して、 収支率1%改善。 【結果】 ①利用者について、 ・延べ6.9人/日 ・延べ62人/月 ②収支率 実証運行時: 21.4% 計画事業期間: 40.0% ⇒18.6%増 【説明】 利用者数の目標については、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などにより、目標を達成できなかった。 一方で、収支率は本格運行に合わせて運行可能な目的地の追加や運賃の見直しなどが功を奏し、大幅に改善された。	地域住民による運行という強みを生かして、地域のイベントや集会等で周知を図る等、新規利用者の獲得を目指す。 また、効率的な運行のため、可能な限り乗合運行を実施できるように、予約受付において調整する(ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況による。)

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利用者数の目標は未達成となったものの、本格運行以降に合わせ目的地の追加や運賃の見直しなどを行い、収支率改善の目標を大幅に達成されたことを評価する。引き続き、地域での周知活動を行うなど公共交通の利用促進を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の施策検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。・ 移動の目的をつくることが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例:まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。
---------------------------------	--